

営 農 情 報

峰延農業協同組合
営農販売課

○平成31年播種用種子の状態

品 種 名	H30播種用種子(未消毒)		H31播種用種子(未消毒)		H31播種用種子(消毒)	
	発芽勢 %	発芽率 %	発芽勢 %	発芽率 %	発芽勢 %	発芽率 %
ななつぼし	95.9	97.5	92.2	96.2	81.5	95.6
ゆめぴりか	96.8	97.6	91.2	94.4	83.2	94.6
ふっくりんこ	96.6	97.4	95.5	96.9	86.8	95.4
きらら397	95.1	97.2	94.2	96.6	81.0	96.2
そらゆたか	96.7	97.6	89.6	92.0	—	—

※平成31年播種用種子は前年産に比べて発芽勢が劣ります。また、浸種開始から24時間の水温が10℃を下回らないように注意し、少しでも発芽勢を高めましょう。

○浸種・催芽の基本技術について

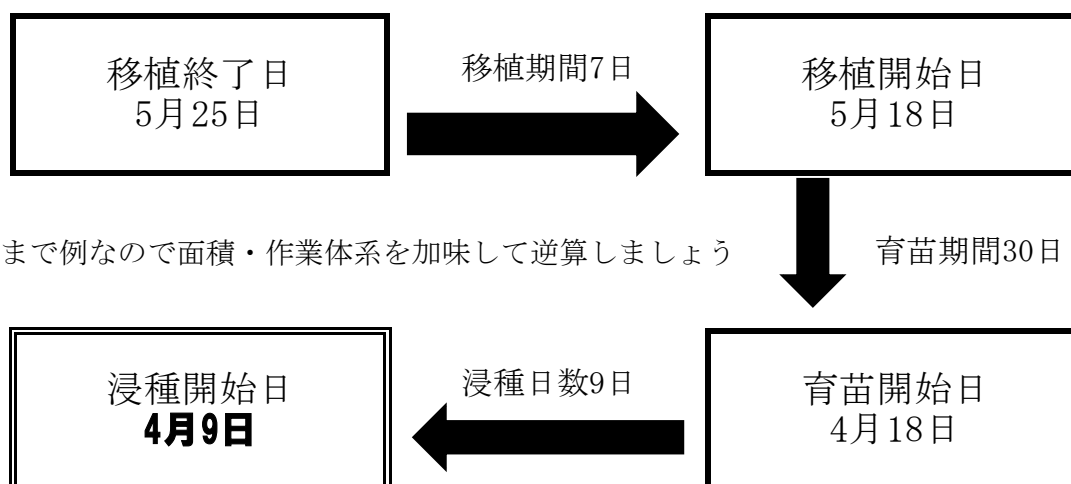
浸種

種子の浸種を行う際は平均水温は11～12℃を厳守し、浸種日数は8～9日で積算温度100℃を目指しましょう。また、浸種の際は薬液と粃の容積比を1対1（種子100kgに対し水200L）とし、消毒剤の廃液は適正な処理を行いましょう。また下記の注意点に留意しましょう。

- ①一般種子は必ず種子消毒しましょう。
- ②テクリードCでの消毒は24時間とし、終了後は3日おきに水を交換しましょう。
- ③消毒済の種子は効果を安定させる為、3日間浸漬した後3日おきに水交換しましょう。
- ④容器内の温度が上下しないように注意し、積算温度100℃を目指しましょう。
- ⑤浸種開始日は移植終了日から逆算し日程を調整しましょう。

移植日から逆算し、浸種開始日を決めましょう。

例えば・・・



※あくまで例なので面積・作業体系を加味して逆算しましょう

催芽

催芽の最適温度は30～32℃で、時間は20時間前後が目安です。また、催芽進度は鳩胸程度にしてください。

食酢処理を行う際は下記の注意点を必ず守ってください。

- ①循環式催芽器以外での食酢処理は行わないで下さい。
- ②食酢処理は催芽のタイミングで行って下さい。
- ③使用する食酢は酸度4.2%の穀物酢を必ず使用して下さい。
(濃度が2倍の特濃酢もあるので注意しましょう。)
- ④業務用の食酢には食塩が含まれていますので使用しないで下さい。
- ⑤使用濃度は50倍で処理しましょう。
(33倍処理では催芽時間が極端に延び、75倍処理では褐条病への効果が低下してしまいます)
- ⑥食酢は一度使用したら廃棄しましょう。
- ⑦使用後の催芽器は必ず洗浄して下さい。

○早期異常出穂対策

早期異常出穂を回避する為、以下の事項に留意し健全な苗を作りましょう。又、移植は5月25日頃、遅くとも5月中に終了しましょう。

◎早期異常出穂抑制技術

移植時 苗形質	草丈	10cm ～ 13cm		
	乾物重	3.0g/100本 ～ 4.5g/100本		
	品種別 目標葉齢	ななつぼし	3.6葉 ～ 4.0葉	…早期異常出穂リスク高
		ゆめぴりか	3.6葉 ～ 4.3葉	…早期異常出穂リスク中
きらら397		3.6葉 ～ 4.4葉	…早期異常出穂リスク低	
育苗管理 の留意点	育苗温度	簡易有効積算温度 : 400℃以内		
	管 理	2.5葉期以降は25℃以上としない。		
	育苗日数	「ななつぼし」で30日		

移植適齢期を逃さず、適期移植に努めましょう！！

○備蓄種子の取扱について

本年も一部、前年産種子が供給されております。備蓄種子を使用される場合は以下の事項に留意して下さい。

- ・必ず種子消毒を行い、浸種を1～3日長くし、十分に吸水させて下さい。
- ・同一品種でも年産別等に区分し、別々の袋に入れ浸種して下さい。

浸種・催芽・播種の際には品種確認を行い
コンタミを防止しましょう。

ご不明な点が御座いましたら営農販売課までご連絡下さい。

TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803